

<日本橋でんでんタウン：大阪市浪速区>

電気・ロボット・ポップカルチャー 3つのキーワードで活性化

～ 若者文化と共存したもののづくりの街 日本橋をめざして！～

取組みの効果

- ◆ 日本橋ストリートフェスタ
には 22 万 5 千人が来場
- ◆ 家族連れ・女性・子どもの
来街者が増加
- ◆ 「ものづくりの街」として
のイメージが向上
- ◆ 「安全な街」としてのイメ
ージが定着

取組みの内容

- ◆ 日本橋ストリートフェスタの開催
- ◆ イメージキャラクターや応援キャラク
ターの作成
- ◆ 電子工作教室、ロボット講習会の開催
- ◆ ラジオ大阪の番組を通じた情報発信
- ◆ マンション等建設時の 1 階店舗化への
働きかけ

取組みの背景

日本橋でんでんタウンは東京秋葉原と並ぶ電気専門店街として発展してきた。しかし、近年、郊外にロードサイド型の大型家電量販店が増え、大阪の主要駅である「なんば」「梅田」にも大型家電量販店が東京から進出してきたこともあり、主要駅から少し離れたでんでんタウンの電気店からは

〈商店街データ〉

- 所在地 大阪市浪速区日本橋西 1-6-5
- 立地 大阪市営地下鉄堺筋線恵美須駅から徒歩すぐ
- 店舗数 65店
- 問合せ でんでんタウン協栄会
会長 土井栄次
Tel 06-6644-0260
<http://www.denden-town.or.jp/>



客足が遠のいていった。

また、バブル崩壊後の景気低迷やネット販売の拡がりにより、電気製品は安売りばかりが求められ、単純な価格競争のみで取引が行われるようになっていった。そのため、でんでんタウンならではのサービスや値切り交渉の楽しさも必要とされなくなり、多くの老舗電気店が廃業や撤退に追い込まれた。

一方で、若者を中心に人気の高いアニメ、ゲーム、ホビーなどの^{※1}ポップカルチャーの店舗や^{※2}コスプレ関連、DVD販売の店舗などが進出し始め、消費者ニーズの変化と販売形態の多様化によって、でんでんタ

ウンの店舗構成は大きく変化してきた。

- ※1 ポップカルチャー：大衆向きで、時代にあったしやれた文化
- ※2 コスプレ：コスチューム・プレイを語源とする和製英語で、アニメやゲームなどの登場人物のキャラクターに扮する行為を指す。

取組みのきっかけ

でんでんタウンと言えば、かつては電気専門店の街、電気製品や部品なら何でも揃うといった電気街としてのイメージで知られてきたが、電気製品の販売量の減少により、電気店の撤退が相次ぎ、電気製品以外のホビー商品をメインとして販売する店舗や、コンビニ、飲食店等の他業種も徐々に増加していった。

特に近年、ポップカルチャーやコスプレが世間に認知されてきたこともあって、メイン道路（堺筋）から一本入った通りには、パソコンやアニメ、コスプレなど新しい商品を売る店が多く参入し、「オタロード」と呼ばれマスコミにも取り上げられるなど、日本橋・でんでんタウン全体のイメージも大きく変化してきた。

しかし、でんでんタウンにはまだまだ昔ながらの電気街として、家電以外の電気材料及各種部品・工具等を扱う多くの店舗があり、多岐にわたる趣味嗜好の専門店も変わらず存在していることから、アニメ・ゲーム、コスプレといった※3サブカルチャーのイメージだけではなく、「ものづくりの街」日本橋としてのイメージ向上を図りたいとの熱い思いがあった。

- ※3 サブカルチャー：ある社会の正統的・伝統的な文化に対しその社会の一部を担い手とする文化。例えば大衆文化、都市文化、若者文化といったものである

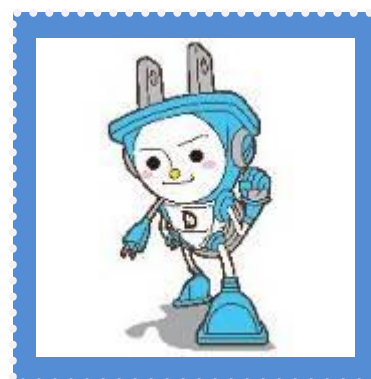
活性化の要因

- ◆ 子どもから大人まで幅広い消費者参加型イベントの企画・開催
- ◆ イメージキャラクターの作成
- ◆ コスプレやアニメ等を嗜好する若者との連携
- ◆ 応援キャラクターの作成
- ◆ 電子工作教室の定期開催
- ◆ 定期的な情報提供（ラジオ番組の提供）
- ◆ 地域との連携（街頭犯罪等の取締り）

事業の仕組み

でんでんタウンは、堺筋という幅員約25mの道路の両側に店舗が並んでいるため回遊しにくくなっている。そこで、毎年春分の日に当たる休日を利用して「ストリートフェスタ」を開催し、回遊性を高めるため、商店街に面する堺筋（約800m）を歩行者天国（12時～16時）として開放している。当日は、コスプレ等を行う若者と連携して、パレードや路上イベントを開催し、来街者や地域住民に新しいでんでんタウンの魅力を積極的に発信している。

また、子どもたちにでんでんタウンに親んでもらえるよう、イメージキャラクター「でんのすけ」を作成。電気街としてのイメージを保つためコンセントをモチーフにコードを背負い「お客さまにつなぐ、夢をつなぐ」をコンセプトにデザインした。



さらに、でんでんタウン周辺在住の人気ゲームクリエイター「いとうのいぢ」さんの協力を得て、応援キャラクターを作成。アニメ好きな若者等にでんでんタウンを身近に感じてもらえるように努めている。



日本橋応援キャラクター
「音々（ねおん）ちゃん」



日本橋応援キャラクター
妹「光（ひかり）ちゃん」

電子工作教室は、でんでんタウンで販売しているパーツ等を使い、子どもたちにロボット製作等を体験してもらおう教室で、年間約100回開催している。毎週日曜日の教室には40~50名の小中学生の参加があり、付き添いの親もあわせて100名近くがでんでんタウンに足を運んでくれることになる。毎週土曜日はロボットのプログラミング会を実施。毎週のように電子工作教室を実施しているのは全国でも珍しい取組みで、ロボカップの全国大会や世界大会でも上位の成績を残すなど、ロボット工作のまちとしての認知度も上がってきている。

また、毎週月曜日午後5時45分からラジオ大阪の番組「ラジオでんでんタウン」を提供。関西を中心に活躍中の芸人、ガリガリガリクソンさんがパーソナリティーを務め、実際にでんでんタウンに繰り出して新商品の紹介、売出し案内や店舗レポートを行ってい

る。

さらに、地域と連携し、街頭犯罪の取締りにも積極的に取り組んでいる。でんでんタウンがある浪速区はひったくり、選挙投票率、違法駐輪の3つがワースト1でそれらを解消するため、平成21年に地域と一緒にドンジリバスターズを結成。ドンジリバスターズは、でんでんタウン近隣のゆるキャラ「ラピートくん」「ビリケンくん」「ネッピー」「まいどくん」「音々（ねおん）ちゃん」「でんのすけ」などで構成し、防犯等のPR効果を高め、地域活動として積極的にポイ捨て禁止の呼びかけや夜間パトロールなどに取り組んでいる。また、でんでんタウンでは偽物を買わない運動も実施し、安全・安心・信頼されるまちづくり、店舗運営にも取り組んでいる。

取組み上の工夫や苦労

歩行者天国を実施する場合は、警察の許可がなかなかおかないのだが、ストリートフェスタを大阪市の活性化を図るための公共的パレードとして位置づけることによって歩行者天国を実現。さらに日本橋ストリートフェスタ実行委員長に大阪市長が就任することで大阪市全体のイベントとしてのインパクトを与えている。

オープニングパレードでは、府警や自衛隊の音楽隊を先頭にブラスバンドパレードをやってもらう（次回は地元中学校のブラスバンドを予定）など、行政や地域の協力を得て実施している。

また、手作りコスチュームパレードにあ

たっては、衣装への着替えは指定の場所（1,500円で場所提供）ですること、キャラクターが持つ刃物類の小物は明らかに偽物とわかるものとする、男性の女装は禁止（更衣室等へ入ってもわからないため）等コスプレでの参加に対して明確なルールを作り、トラブルを未然に防止している。

電子工作教室については、当初2002年頃は、ロボット関連パーツを取り扱う店舗のみ儲けさせるだけだという声もあった。

しかし、電子工作教室に列を作って並ぶ人達をみて、集客効果があるという理解を得られたことやロボカップ等の大会で成績が残せるようになったことで、でんでんタウンの人達の興味を惹くとともに応援していただけるようになった。また、子どもの頃からでんでんタウンに来て慣れ親しんでもらうことで身近に感じてもらえるようになっている。

また、ラジオ番組については、多額の費用がかかると思われがちだが、アーケードの柱にガリガリガリクソンさんのポスターが使えるなど、二重の効果が出ている。さらに映画会社からリスナープレゼント用のチケット提供等もあって応募ハガキも多数寄せられる。ラジオのリスナーは年配者等の固定客が多いので情報発信としては高い効果が得られている。



さらに、地元町会と一緒に月1回食事をするなど、地域の人とのつながりを大切にしている。このような日頃からの交流により防犯活動が実施でき、店舗をマンションへ建て替える際には1階部分を店舗にするように働きかけることができています。



めざす商店街像（今後の展望）

日本橋でんでんタウンの強みである、電気材料・電子パーツ店を中心に「ものづくり」を得意とする日本橋を復活させたい。

そのために現在の子どもたちの理科離れを解消し、日本橋から電子工作・ロボット製作に熱中する子ども達を育てていきたい。そうした取組みを通じ、学校をはじめとして「ものづくり」が見直され、電子キット、ロボット教材の需要が高まり、日本橋でんでんタウンが、再び電気・電子部品の商売で活気のある街にしたいと願っている。

こぼれ話

電子工作教室に参加した小学生の中には、ロボットや工作が好きなんだけど、学校では友達の輪にうまく溶け込めず、家でもほとんどしゃべらない子どもが、お母さ

んと一緒に工作教室に参加してくれた。

その日、お母さんは工作室とは別の部屋で待ちながら、時々、様子を見ていたが、工作教室が始まると同時に子どもが熱心に作り始め、分からないところは積極的に先生に質問し、答えてくれた先生に「先生すごい！」と感心する、積極的な姿を見られたそうである。

家に帰るといつもおとなしく話もしなかった子どもが、その日は、お母さんに工作教室での話をいっぱいし、その子どものうれしそうに話しかける姿にお母さんは以前との変わりようもあって大変驚いたそうである。なぜ、そんなに変わったのか知りたくて次の工作教室にはお父さんも一緒に参加し、その次の教室にはおじいちゃんも同伴して参加してくれたそうである。

電子工作教室に参加しているときの子どもは大変生き生きとしいて楽しそうだったとのことである。

取材を通して

今回お話を伺ったでんでんタウン協栄会事務局の吉谷事務局長は、「この街の人達は時代の流れに俊敏に反応し、店舗の移り変わりもその表れで、でんでんタウンが衰退しているわけでなない。だから、電気製品の販売店が多くあったときも、店舗の構成が変わった今も、でんでんタウンの最寄り駅である地下鉄恵美須駅の乗降客数は変わっていない」、また、「日本橋ストリートフェスタのように、でんでんタウンとして何かやろうとしたときはとても協力的でいい人ばかり」という。このように

はっきりと言えるのは、やはりこの街を熟知し、日頃から街の人達とのつながりを大切にされている表れだと感じた。

また、ロボット教室の話題では、事務局長は、「電子工作教室やロボット講習では、叱られたり、束縛されてやるのではなく、自由に工夫して成長してほしいと願っている」とのことであった。「例えば、ロボカップなどの大会では急なトラブルがよく起こる。そんな時は自分たちで対処するしかないのだが、その場面に出くわした時に指導者の顔を見て頼るのではなく、不安でもうろたえずに、自分と仲間を信じて、自分たちで判断し対処できるようになってもらいたい」とのことであった。また、「大会では勝負だけでなく楽しんでもらいたい」ともおっしゃっていた。これらのことは、生きて行くうえでも同じことが言えるのではないかと感じた。

最後に事務局長は、本当にものづくりが大好きで、電子工作教室やロボット講習を通じて、困難にも立ち向かっていける人を育てているのではないかと。そして、電子工作教室やロボット講習を通じた年の違う仲間との出会いは、参加した子どもたちにとっても貴重な財産になると確信した。